

神代のまさことの序
神代正語のゆゑよし

栗田土満

本居宣長



目次



© Manabe Yutaka designed and published this book.

shiromi.png

神代のまさことの序

千チ書フミハヤ千チ書フミ。ふみはあれども。漢國カラクニの書フミはさかしらぶみ。後ノ世の書はからぶり書ブミ。故カレ縣アガタ居キノ大人ウシは。古学フルコトマナビせむ人は。古事記日本紀万葉集をなも。しづたまきくりかへしよむべきなりと。いはれける。まことに此みどものふみはしも。古ヘぶりの書にして。主ムネとまなぶべき書になもありける。そが中に日本紀は。かきざまをからぶみぶりにならひたれば。心せずてはあやまるべく。萬葉集は哥書ウタブミなれば。古イニシヘ意ゴ、ロのおもぶきこそあれ。古事フルコトの書にはあらぬを。古事記はや。飛鳥アスカの浄キヨ御ミ原バラの大宮オホミヤに御宇アメノシタシロシメシし天皇スメラミコトの御代ミヨ。稗ヒエ田ダの子コにみことのらして。神カミ代ヨより傳ツタはりこし古事フルコトをら。つたへのまゝに。言コトあやまらずよみうかべて。口クチにとなへならはしめたまひし古語フルコトにしあれば。これぞこの上つ代を。今のをつゝにうつし見るべき。まそみの鏡カバミになも有ける。しかはあれども。世々の人の心。からぶみの塵チりにくもり。からもじにのみかゝづらひて。古言のふりをしわすれきぬれば。いまはたかの稗田の子がとなへしごとよまむことは。いとかたきわざとなも成にける。こゝに吾ワガさくすゞの鈴の屋のうしは。石ノ上古き世のふみらことゝ。見あきらめときあきらめ給ひて。きたなきちりくもりを。伊勢ノ海のきよきなぎさに。はらひきよめそゝぎきよめて。すがノしき古語のまにノなも。よみなほし給ひける。故カレこの大直オホナホ日ビのみたまによそりて。くもりなきかゞみにむかひ。いよゝますノいにしへをあふぎたふとむ人。年月にそへておはくなもなり來にける。其ツが中にも。真玉つく尾張ヲハリの國春風ハルカゼのなごや人。横ヨコ井キノ千チ秋アキ主ヌシはも。此ノとぎ清キヨめたるまそみ鏡を。あさよひと見めづるあまりに。いかで此神代の巻マキをら。かのからもじをはなして。わがともがらうひ学マナびの人にも。ふることあやまらず。古言よこなまらず。よみならはさむよしもがと。山すがの根ネのねもころにねがひおもひて。今の世の色葉イロハ假字ガナにうつして。物し給むことを。大人にこひ申されけるに。大人はた此事おもほしよれるをりなりければ。たまぢはふ神の御ミ心コ、ロと。きゝよろこびたまひて。すみやけくおもほしおこして。寛政のはじめの年。四月ばかりよりさ月のほどまでに。かきをへ給ひて。三巻となもなしたまひぬる。をりしも土ヒヂまろ。大人の御もとにまゐる來をりて。かつゝもひらき見れば。古事記をむねとして。もれたることをば。日本紀なるをもこれかれととりまじへ。またはやくより訓ヨミあやまりこし古言をば。ふる言によみ直し。ことこのゝろをさへに。かつゝときわきまへたまひぬ。いまよりのち。此ふみをよくよみうかべむひとは。漢カラもじなかりけむ上つ代の。まことのありかたをつばらにさと。から國の書フミ後の世のふみどもの。こちたきさかしら。いつはりかざりの多かることをも。わきためしりて。おのづからに大オホ御ミ國クニのなほくおほらかなりしいにしへを。たふとむ心はいやましなむ。あふぐこゝろはいやましなむと。遠淡海國人栗田土満。よろこびかしくみ。うなねつきてまをす。

上つ代の事は、上つ代の語コトバもてかたり傳ツタへしを、それ記シルせる書フミは、みな漢字カラモジもて記シルせるが中に、其シノからぶみことばにかゝはらざるは、記シルせる事も傳ツタへ説ゴトのまゝなるを、からぶり詞にかはれるは、しるせる事も其ソノ意コ、ロも、おのづからみな漢カラめきてぞ聞キ、なざるゝを、其書フミどもならひよむにも、その漢籍カラブミぶりのまゝによみならふから、よむ人の解サトる心も、おのづからみなこちたき戎カラぶりにのみなりて、うるはしき直ナホき正しき皇スメラ御ミ國クニの意詞コ、ロコトバをば、みな失ウシナひはてゝきかし、おのれはやくより、神代の御ミ典フミを讀ヨムごとに、此事のいとうれたきにつきて、思ひわたらくは、書紀は、からぶみ語コトバのかざりを加クハへられたるところし多かれば、今ことゝに古イニシヘ語コトバには訓直ヨミナホしがたきを、古事記は、古イニシヘ言コトバをむねとせる御ミ典フミなれば、いとうるはしき御ミふみなるを、それすらそのかみのつねとして、大かたのもじつゞけは、なほ漢文カラブミぎまにしあれば、おのづからそのもじつゞきにひかれて、なほ皇ミ國クニ言コトバのふりならぬも、ところゝまじらずしもあらねど、それはたことさらにかざりそへたるにはあらざれば、かたはらに片カタ假字カナといふ物つけて、此古事記は、みな古イニシヘ語コトバに訓ヨミかへしはしつべし、然はあれども、かたはらに附ツケたる假字カナは、かたはらなれば、なほむねと書カキたる漢カラ文字モジに目うつりて、古イニシヘ語コトバのかたには、もはらと心のしみがたきをば、なほいかさまにしてばよけむと、思ひめぐらして、此春のころ思ひよれるは、まづ此神世の御ミ卷マキばかりをだに、もはら假字カナつゞけに書カキなしてば、からもじに目うつることなくて、うけばりたる古へのみやびごとの書フミならましを、とは思ひよれる物から、何くれとさしあたりてなすべきわざのしげかるには、此事とみにえ物すべくはた思へらざりしを、三月ヤヨヒの末つかた、尾張ノ国の名児屋ノ里に物せしこと有て、横井ノ千秋主に逢アヒけるに、殊にこひもとめらるゝ事こそ有けれ、そもゝ此人は、かの国には世々からぬ列ツラの殿人トノビトにて、國の政マツリ事ゴトまをすべきすぢを、ことに深く心にしめて、つねは、から国の教への、かにかくにいつはりおほくて直ナホからず、殊に君を軽カロめて、つかへの道にいたくそむけることをうれたみて、ひたぶるにさるをしへによる時は、おのづから世ノ人のしわざいつはり多く、うはべをのみかざらひつゞ、したの心には上を軽カロめ、まめこゝろをしうしなひて、道の本國の本とあることわりの立タゝざらむことを、いみしくかしこみ歎ナゲきて、いかで皇スメラ大オホ御ミ國クニの正しき道の心ばへもて、萬ツを眞マ心に直ナホくおこなひ、下が下までいつはりなく、まことのこゝろもて、まめやかに上につかへしめ、此ノ君臣の重オモきことわりをうまくきとして、永ナガくめでたく国治めてしがと、朝よひに思ひねがはるゝ心なもいと深くして、其ノすぢをつばらかに書カキあらはされたるふみも、これかれとぞ有ける、年ごろわがり言コトかよはして、物とひあきらめ、すべて皇ミ國クニの古イニシヘ学マナビに、いともいそしき人になも有ける、故カレその殊なるまめどころをおむかしみて、我も又同じ心に、ちからをそへつゞ有リふるに、此度又其ノ殊にこひ求めらるゝ事は、古事記の上つ卷マキを、古イニシヘ語コトバの假字カナ書ブミにかきたびてよ、はやくも然シカせるた

ぐひはあれども、古言フルコト正しからず、つゞけぎまうるはしからず、てにをはとゝのはずなどして、中ゝの物ぞこなひなめるを、今よくしたゝめとゝのへてば、初ウヒ学マナビなどのためにも、いとよきたづきならむかし、此事いかでとくと、いとねもころになもこひもとめらるなる、さるは本より古事記傳を板イタにゑることも、もはら此人ぞ事おこして、物せらるなれば、其ノ摺本スルマキ出イデ来コぬとに、まづ此神代のかなぶみを世にほどこらし、讀ヨミならはせて、みやびたるいにしへことばを、口なれしめ耳なれしめて、世の人のきたなき心を、すゞぎ清めむのこゝろざしなりけり、おのれ此ねぎことを聞て、あやしみ思へらくは、此事よ、おのれ此ごろ心のうちにかつゝ思ひよれるにあはせて、此人はたかくしもねもころにいそぎ思はるゝは、神直カムナホ毘大直オホナホ毘の神の、ことなる御ミ心コゝ口にこそはと、いとたふとく、かつはかしく思ひおこして、國に歸りては、あだし事どもをばうちおきて、すなはちまづ、よるひるといそぎなしたる此書になもある、かくてその書カキつゞれるさまは、古事記と書紀とを合せて、事のおもぶきいとしも異コトならぬは、古事記によりて、いさゝかのたがひをば、二典別フタフミコトにはあげず同シ事の異コトなるをば、別コトにあげて、又はかくもありとしるし、古事記にもれたる事は、書記を取リて、古イニシヘ語コトバにかへしてあげつ、又此ノ二典フタフミにはもれたる事の、こと古イニシヘ書フミに見えたるをも、一つ二つあげつ、書紀のからぶりのかざり詞は、すべてとらず、なほこまかなるさまは、ひらき見てしるべきなり、大かた此書は、まづもはら古への雅ミヤビ言教ゴトヲシへむとのしわざなれば、口なれたる後の世のひがよみ、言コトつゞきの便タヨリにくづれたる音などまじへず、清スミ濁ニゴリも何ナニも、書カケるまゝに、正タゞしくうるはしくよみならふべき物ぞ、ゆめ一もじもみだりにはよむべからず、又もろノの言の中には、古へ今ともはらかはらぬも多かるを、後の世のと同じ言をば、のぞかむとすれば、しひごとになりて、なかノに正しからねば、今はしひてふるめかさむとはかまへず、たゞ有ルべきまゝに用ひつれば、なだらかに耳ぢかくして、たまノ今とかはらぬ詞もまじれるを、これ古へのにあらじかと、ないぶかり思ひそ、又真假字マガナをおきて、後ノ世の色葉イロハ假字ガナにしもかけるゆゑは、真假字マガナは、今は猶ものどほく、よみぐるしければ、うひ学マナビのともがらなどは、よむに語コトバとゞこほりて、すがノともえあらず、中ゝに口にもみゝにもならふたよりあしければぞ、

寛政のはじめの年五月の晦 伊勢人 本居宣長

← 本書の本文『神代正語』も
パブリックドメインの本で公開中です。





神代のまさことの序 / 神代正語のゆゑよし

著: マチカネの本

[この本を読む](#)

ここが入り口です 

状態	完成
最終更新日	2021年05月05日 <small>1ヶ月以内</small>
ページ数	PDF: 12ページ
ダウンロード	PDF EPUB

ad2ii.png

古今和歌集遠鏡 卷一

電子版



Public Domain

令和三年七月三十一日発行

著者―本居宣長

製本―マチカネの本



oku.png

神代のまさことの序／神代正語のゆゑよし

著 マチカネの本

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
